

報告第5号

令和7年度株式会社おおや振興公社の経営状況について

令和7年度の株式会社おおや振興公社の経営状況は、別冊のとおりである。よって地方自治法（昭和22年法律第67号）第243条の3第2項の規定により、報告する。

令和8年8月31日提出

養父市長 大 林 賢 一

令和7年度

経営状況報告

株式会社おおや振興公社

第39期 事業報告書

自 令和7年4月1日
至 令和8年3月31日

1 総括

第39期のあゆ公園は4月18日より営業を開始し、当期の売上総合計は46,032千円(前年度比110%・4,159千円の増加)となり、増収を達成いたしました。概要および各部門の状況は以下の通りです。

【天候の影響と売上の動向】

- ・(4月～5月): 低温と雨天の影響により、前年度比93%と低調なスタートとなりました。
- ・(6月～8月): 早い梅雨明けと好天に恵まれ、6月は前年度比158%、7月は過去最高売上(前年度比158%)を記録。8月も前年度比108%と順調に推移しました。
- ・(9月～10月): 週末の相次ぐ雨天により、前年度比78%と苦戦いたしました。

【部門別の取り組みと成果】

- ・人工河川部門: 昨今の物価高騰に対し、BBQメニューの価格や内容の見直しを行いました。この対策と最盛期の家族連れのお客様のご来場が実を結び、前年度比113%の増収を達成いたしました。
- ・レストラン部門: (公社)養父市シルバー人材センターとの業務委託を継続する中で、今年度はシルバーの皆様が自ら考案してくださった新メニューを導入いたしました。これにより、地域らしさや温かみのあるサービスが加わり、混雑時にも安定した店舗運営体制を維持することができました。
- ・宿泊部門: 変化する市場ニーズやコスト状況に合わせ、宿泊料金プランの適切な見直しを実施いたしました。施設の美化徹底と合わせてお得感や利便性を高めた結果、コテージの稼働率およびサービス品質の維持・向上につながりました。

【今後の展望】

当期は物価高騰などの厳しい社会情勢の中、BBQメニューや宿泊料金の見直し、さらには設備・備品の修繕、更新など、柔軟な経営改善に挑み、増収という確かな成果へ繋げることができました。次年度におきましても、これらの取り組みで得た知識や地域との連携体制をさらに深め、さらなる利便性の向上とあゆ公園ならではの魅力あふれる施設づくりにして精進してまいります。今後とも来場されるお客様に長く愛される施設を目指し、より一層の努力を続けてまいります。

部門別の売上の対前年度比較

(税抜)(単位:円)

部門	第39期(令和7年度)	第38期(令和6年度)	増減	前年度比
人工河川	33,388,205	29,499,216	3,888,989	113%
レストラン・物産	0	0	0	0%
宿泊	6,804,827	6,651,537	153,290	102%
駐車場	2,719,917	2,602,280	117,637	105%
その他	3,120,000	3,120,000	0	100%
合計	46,032,949	41,873,033	4,159,916	110%

注)レストラン部門は、(公社)養父市シルバーに業務委託をしているため、売上はありません。

2 個別事業

(1) 人工河川

人工河川部門は、家族連れに特に人気のある施設として安定した売上を維持し、当期売上は33,388千円(前年度比113%)、そのうちBBQ売上においては前年度比104%の増加を達成いたしました。

- ・昨今の物価高騰への対応を実施し、BBQメニューの差別化を図るため、食材の一部(ピーマン等)を有機野菜へと変更するイベントを開催いたしました。

- ・今期、来場者を対象に実施したアンケート調査(回答結果)より、以下の動向と成果が明らかになりました。

- 【来場回数(リピート状況)】初めて(1回目):64% / 2回目:15% / 3~5回目:11% / 数えきれない:4% (未回答:5%) ⇒ 新規顧客の確実な獲得に加え、全体の3割以上(30%)が複数回来場しているリピーターであり、高い満足度が継続利用に繋がっていることが実証されました。
- 【あゆ公園を知ったきっかけ】インターネット検索:32% / SNS(Instagram等):27%(前年度:19%) 友人・知人の紹介:11% / 情報誌・広報:8% / キャンプ場:2% / その他:4% (未回答:14%) ⇒ 検索とSNSを合わせたデジタル経由の認知が59%と過半数を占めています。特に今年度は、新たな試みとしてインフルエンサーを起用した情報発信に注力いたしました。その結果、SNS経

由の認知が前年度の19%から27%へと大幅に向上しており、ターゲット層へのダイレクトなアプローチと新規客の呼び込みに高い効果を発揮したことが実証されました。このSNS認知の8%の伸びは、人工河川部門の売上において概算で約2,000千円の増収効果をもたらしたと推計され、当期の業績に大きく貢献いたしました。また、口コミ(11%)による確実な広がりも確認されています。また7月から8月までの繁忙期(土日祝日やお盆期間)における駐車料金の設定を継続。期間中の利用台数は3,004台(前年度比107%)に達しました。

(2) レストラン

レストラン部門におきましては、営業日数22日間の中で1,290人(前年度比102%)のお客様を迎えました。当期は、シルバーの皆様が地域の特色や利用者の好みを活かして自ら考案してくださった新メニューを新たに導入いたしました。この変化により来場されたお客様からもご好評をいただきました。

(3) 宿泊(ペンション・コテージ)

ペンションは、市との協議の結果、経費削減のため水道・ガス・電気の供給を停止しています。

コテージは、売上6,804千円(前年度比102%)となりました。市場の動向やコスト環境に合わせた宿泊料金プランの適切な見直しを実施いたしました。また、施設の老朽化が進行しているという課題に対し、安全性の確保と清潔感の維持に留意し、今年度は宿泊環境のクオリティ向上と快適性の追求を目的に以下の具体的な改善策を講じました。

- ・以前より利用者からの要望が多かったバスタオルを完備し宿泊時の利便性を向上させました。

- ・施設的美観と快適性を損なう要因となっていた鳥の糞対策(防鳥対策など)を迅速に実施し、清潔で安心な滞在空間を確保いたしました。

さらに、就労継続支援A型事業所である合同会社SPARKとの連携体制のもと、コテージの徹底した清掃管理を継続いたしました。今後も老朽化への計画的な修繕・メンテナンスを進めつつ、次年度以降の稼働率およびリピート率向上に繋がる運営基盤を整えていきます。

(4) 全体施策

当期は、あゆ公園全体の魅力向上と、来場されるすべてのお客様が快適かつ安全に過ごせる環境づくりを目指し、「毎年少しでも変化を加え、進化し続ける施設」を共通の心構えとして、以下の全体施策を推進いたしました。

1. 地域貢献と情報発信の強化(来場者と地域を繋ぐ取り組み): あゆ公園単体での集客に留まらず、広域的な地域振興を目指しました。具体的には、大屋町内の立ち寄りスポットの案内や、公式ホームページ(HP)のリニューアルに注力いたしました。これにより、養父市内の事業者や観光資源を積極的にPRする「地域貢献」の役割を果たし、地域全体の活性化に寄与する体制を整えました。
2. 行政との連携と自主財源による迅速な環境整備: お客様の安全性と利便性を第一

に考え、養父市との連携体制を強化いたしました。今年度は施設の機能維持のため、食洗機や冷蔵ショーケースなどの基幹設備の更新・修繕を含め、必要となる多額の費用を弊社の負担にて支出いたしました。行政との適切な役割分担のもとで迅速な修繕対応を遂行したことにより、案内看板の刷新や人工河川の仕切り枠、厨房機器、コテージの修繕などを遅滞なく完了させ、公園環境を維持いたしました。

3. 顧客目線の空間づくりと安全リスク管理：夏の猛暑という環境変化に対し、日除けの屋根を適切な位置へ配置することで、お客様が直射日光を避けて心地よく憩える快適な日陰空間を整えました。あわせて、無料のリクリエーションスペースの利便性を高める整備・拡充を行い、ファミリー層を中心とした滞在時の満足度向上を図りました。また、広大な園内の安全管理においては、定期的な敷地内の立木の伐採・剪定や徹底した草刈りを実施。自然の豊かさと調和した「美しく、安心して過ごせるあゆ公園」を目指しました。

3 設備投資と修繕

(税抜)(単位:千円)

部門	区分	内容	投資	修繕
川の家	川の家	冷蔵ショーケース購入(飲み物陳列用)	290	
		冷凍ショーケース購入(アイス保管用)	118	
		食洗器用ガス給湯器	200	
		人工河川仕切り柵		885
共通	事務所	エアコン買替	291	
		ノートパソコン購入	108	
		ハイゼットカーゴ購入	785	
	広告宣伝	案内看板(駐車場手前側)		226
		施設案内看板(園内・駐車場内)		380
		案内用ポール看板(園外2箇所)		400
		看板デザイン費用		285
		広告宣伝用映像撮影費	110	
コテージ	コテージ	コテージ屋根部分修理(全棟)		121
		コテージ襖張替(全棟)		149
		コテージ縁側・床下修繕	(1・2・3	765
		・5号棟)		
レストラン	レストラン	ウッドデッキ撤去		425
合 計			1902	3636
総 合 計			5,538	

注)10万以上の投資経費と修繕費を計上

決 算 報 告 書

第 39 期

自 令和 7年 4月 1日

至 令和 8年 3月 31日

株式会社 おおや振興公社

兵庫県養父市大屋町加保 582

貸 借 対 照 表

(単位：円)

株式会社 おおや振興公社

令和 8年 3月31日現在

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流 動 資 産】	【 53,468,361】	【流 動 負 債】	【 6,513,674】
現 金 及 び 預 金	52,940,630	未 払 金	4,563,767
売 掛 金	20,200	未 払 人 件 費	325,239
商 品	228,859	未 払 消 費 税 等	1,080,200
貯 蔵 品	241,772	預 り 金	15,268
立 替 金	28,140	未 払 法 人 税 等	529,200
未 収 入 金	1,250	負 債 の 部 計	6,513,674
預 け 金	7,510		
【固 定 資 産】	【 11,254,259】		
(有 形 固 定 資 産)	(10,315,165)		
設 備 造 作	743,252		
構 築 物	6,552,886		
車 両 運 搬 具	2		
工 具 器 具 備 品	295,416		
土 地	2,723,607		
一 括 償 却 資 産	2		
(無 形 固 定 資 産)	(795,094)		
電 話 加 入 権	105,760		
ソ フ ト ウ ェ ア	689,334		
(投資その他の資産)	(144,000)		
出 資 金	30,000		
保 証 金	114,000		
資 産 の 部 計	64,722,620		
		純 資 産 の 部	
		【株 主 資 本】	【 58,208,946】
		[資 本 金]	[57,000,000]
		[利 益 剰 余 金]	[1,208,946]
		(その他利益剰余金)	(1,208,946)
		繰 越 利 益 剰 余 金	1,208,946
		(うち当期純利益)	(3,458,734)
		純 資 産 の 部 計	58,208,946
		負 債 ・ 純 資 産 の 部 計	64,722,620

損 益 計 算 書

(単位：円)

自 令和 7年 4月 1日

株式会社 おおや振興公社

至 令和 8年 3月31日

科 目	金 額	
【売 上 高】		
売 上 高	42,912,949	
受 託 収 入	3,120,000	46,032,949
【売 上 原 価】		
期首商品棚卸高	271,887	
仕 入 高	9,432,893	
合 計	9,704,780	
期末商品棚卸高	228,859	9,475,921
売 上 総 利 益		36,557,028
【販売費及び一般管理費】		33,257,414
営 業 利 益		3,299,614
【営 業 外 収 益】		
受 取 利 息	1,537	
受 取 配 当 金	1,200	
雑 収 入	685,584	688,321
経 常 利 益		3,987,935
【特 別 損 失】		
固 定 資 産 処 分 損	1	1
税引前当期純利益		3,987,934
法人税住民税事業税額		529,200
当 期 純 利 益		3,458,734

販売費・一般管理費内訳書

(単位：円)

自 令和 7年 4月 1日

株式会社 おおや振興公社

至 令和 8年 3月31日

科 目	金 額	
役 員 報 酬	780,000	
給 与 手 当	8,351,163	
法 定 福 利 費	738,447	
福 利 厚 生 費	73,374	
賞 与	600,000	
出 向 者 給 与	839,575	
外 注 費	4,643,583	
広 告 宣 伝 費	867,285	
運 賃	125,500	
支 払 手 数 料	1,389,840	
販 売 促 進 費	19,811	
寄 付 金	25,000	
諸 会 費	106,000	
旅 費 ・ 交 通 費	119,818	
通 信 費	333,922	
事 務 消 耗 品 費	62,727	
消 耗 品 費	2,754,321	
租 税 公 課	49,680	
減 価 償 却 費	4,530,440	
修 繕 費	1,579,338	
水 道 光 熱 費	2,658,900	
保 険 料	389,582	
装 備 衛 生 費	757,796	
リ ー ス 料	468,880	
燃 料 費	166,631	
支 払 報 酬	336,446	
研 究 開 発 費	6,738	
雑 費	482,617	
合 計		33,257,414

株主資本等変動計算書

株式会社 おおや振興公社 (単位：円) 令和7年4月1日 至 令和8年3月31日

	株 本			主 資 本			株 主 資 本 合 計	評 価 ・ 換 算 差 額 等 合 計	新 株 予 約 権	純 資 産 合 計
	資 本 金	資 本 剰 余 金	資 本 準 備 金	そ の 他 の 資 本 剰 余 金	利 益 金	利 益 準 備 金				
当期首残高	57,000,000						54,750,212			54,750,212
当期変動額										
当期純利益							3,458,734			3,458,734
当期変動額合計							3,458,734			3,458,734
当期末残高	57,000,000						58,208,946			58,208,946

	利 益 剰 余 金 の 内 訳		
	繰 越 利 益 剰 余 金	利 益 合 計	利 益 剰 余 金 計
当期首残高	Δ2,249,788		Δ2,249,788
当期変動額			
当期純利益	3,458,734		3,458,734
当期変動額合計	3,458,734		3,458,734
当期末残高	1,208,946		1,208,946

個 別 注 記 表

株式会社 おおや振興公社

自 令和 7年 4月 1日

至 令和 8年 3月31日

1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

有価証券の評価基準及び評価方法

有価証券・・・総平均法による原価法

棚卸資産の評価基準及び評価方法

原材料・仕掛品・製品・・・最終仕入原価法による原価法

商品・貯蔵品……………最終仕入原価法による原価法

固定資産の減価償却の方法

税法に規定する償却期間で償却している。

引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒損失に備えるために、過去の貸倒実績率による繰入率によるほか、債権の内容を検討して計上している。

消費税の会計処理

税抜方式で計上している。

収益及び費用の計上基準

収益については実現主義により、費用については発生主義により計上している。

中小企業会計に関する基本要領

2. 貸借対照表に関する注記

資産に係る減価償却累計額を直接控除した額 15,429,148 円

保証債務、手形遡求債務、重要な係争事件に係る損害賠償義務その他債務の注記

受取手形割引高 0 円

受取手形裏書譲渡高 0 円

3. 株主資本等変動計算書に関する注記

当事業年度末における発行済株式の数 1140株

当事業年度末における自己株式の数 0株

当事業年度中に行った剰余金の配当に関する事項

(剰余金の配当のうち、剰余金の配当を受ける者を定めるための法第124条第1項に規定する基準日が当事業年度中のものを含む。)

第38期事業年度の定時株主総会

配当に関する事項

配当財産が金銭の場合

金銭配当の株式の種類別内訳

配当金の総額

1株当たり配当額 0円

基準日

令和 7年 3月31日

4. 1株当たり情報に関する注記

純資産額 51,060円47銭

当期純利益 3,033円97銭